

JTB グループ労働組合連合会 第19回震災復興支援活動レポート

JTB コミュニケーションズ労働組合

開地 俊介

参加期間：2015年10月21日（木）～22日（金）

参加地区：南相馬市小高区

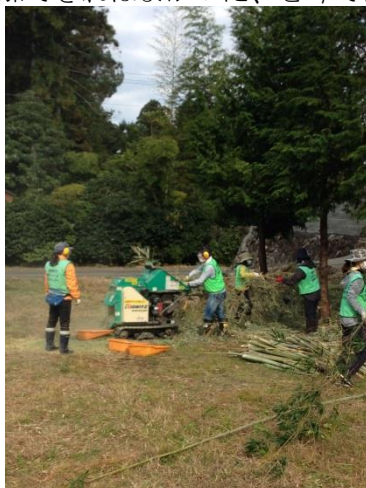
参加人数：14名

1. 活動参加にあたって

2011年3月11日（金）の地震発生時、私はとある駅ビルにて、販促品の撮影業務を行っておりました。揺れが収まり、お客様の避難誘導を終え、まずは状況確認を、と、テレビの設置された駅の待合室へ。NHKで仙台空港の津波が中継されていました。

私は、大学生生活の4年間を仙台で、そのうちの1年間を仙台空港横の部活の合宿所で、過ごしておりました。NHKが中継する映像は、そんな自分の生活していた1年間を飲み込むような、時を違えば自分が画面の先にいたかもしれない、そんな畏怖の念を孕んだ映像として、今も目に焼き付いています。

今回の復興支援活動は、そんな感覚の再確認と、また、その恐怖を目の当たりにしていた友人たちが観た視線を実感するために、参加をさせていただきました。もう少し早くこの活動に参加できればよかった、と今では感じています。



2. 活動の内容

私の参加したグループの活動は、個人宅の裏庭の竹林伐採、でした。小高地区の避難指定解除準備区として、除染などの作業が進んでいる地域ですが、その帰宅準備住民さんの依頼です。こういった、帰宅を希望される方は、特に高齢の方が多いようで、地元の人たちによる自力の再生では限界があることが想像されます。そういった背景もあり、このような自宅や周辺の荒廃した山林の整備に対するニーズが現在では高まっているようでした。

その竹林は、確かにご高齢の方の手では手入れが難しい環境であり、空を覆い尽くすように伸び、生い茂っている状態でした。伐採の作業自体は、チームに経験者の方がいらっしゃったこともあり、また、進めるほどに空が開けていく様も気持ちもよく、スムーズに（と私たちは思っていますが、センター長がどう思っているかはわかりません）終えております。この活動を通じて、「課題と目標」を気持ちレベルで共有できたチームの強さを感じました。



3. 今回の活動を通じて

当日、街について初めに感じたことは、「不思議な空間」という印象でした。街も、家も、見た目はそのまま存在しているのだけれど、とにかく、人がいない、生活感がない。小説で読むような異世界にきた感さえ覚えました。また「除染作業中」というノボリを掲げ、作業員の方々が、黙々と除染作業をしている様もまた、別世界の光景のように映り、自分の日常が、震災の現場を忘れた世界になっているのか、ということに気付かされました。

このレポートでは、改めて、震災から 5 年が経とうとしているいまでも、その爪痕は残り、その影響を受けて生活をする人たちがいることを確認したこと、をお伝えしたいと思います。その上で、この景色を忘れないこと、自分たちの日常がそういった状況に陥る可能性があること、そのときにどうすべきか、そうなる前にしておくべきことは何か、を考え、行動に滲ませる、そんなキッカケを得ることができた活動であったこと、を添えたいと思います。

ボランティアニーズのために、あえてこういった機会を残していただいている、ボランティアセンターのみなさまの活動に、御礼申し上げますと共に、この経験を、一過性のものとせず、日々のコミュニケーションに活かし、積み上げていくことをお約束いたします。

